

(参考1) クレアレポート「オーストラリアにおける環境保全対策」より抜粋⁴⁵

第4章 シドニー五輪の環境保全対策

第27回五輪夏季大会は、2000年9月15日から10月1日まで、オーストラリアのシドニーで開催される。同大会は、環境保全対策の見地からも重要な意義を有している。なぜなら、この大会は、IOCが、五輪運動の目的として、スポーツ振興及び文化振興とともに、環境保全を掲げることを決定してから最初の大会となるからである。

ここでは、オーストラリアにおける最大級規模の環境保全への取組事例として、環境に優しい「グリーンゲーム」をめざすシドニーオリンピックにおける環境保全対策の概要を紹介する。

第1節 「グリーンゲーム」の背景

93年9月23日、2000年の夏季五輪開催地を決定するIOC総会で、北京との決選投票の結果、シドニーが第27回大会の開催地に決定した。

シドニー決定の決め手となったと言われるのが、シドニー五輪招致委員会が投票直前に公表し、IOCに提出した26ページの文書であった。「夏季五輪大会のための環境指針(The Environmental Guidelines For The Summer Olympic Games)」と題されたこの文書は、92年6月の地球サミット(環境と開発に関する国連会議)で採択された環境原則を踏まえて、五輪開催都市が施設を整備し、大会を運営するに当たって遵守すべき100項目以上の環境配慮事項を掲げたものであった。

世界が注目する五輪において環境への配慮を強調することは、地球的規模での環境啓発に資する。この世界最大級のイベントは、最先端の環境技術を試み、PRする絶好の場でもある。五輪の理念に環境という新たな次元を加えようというシドニーの主張は、IOC委員に強くアピールして招致の成功に結びつき、これ以後、五輪を招致するためには、開催計画に環境指針を盛り込むことが必須の要件になった。

第2節 シドニー五輪の環境保全対策の基本指針

シドニー五輪の環境保全対策の基礎になっているのは、前節で触れた「夏季五輪大会のための環境指針」(以下、「五輪環境指針」という。)である。この指針は、国際的な環境団体グリーンピースの案を土台に、環境団体、NSW州政府、産業団体等の代表で構成する委員会によって策定された。

五輪環境指針には、「エネルギーの保全」、「水資源の保全」、「廃棄物の発生抑制及び減量化」、「大気、水質及び土壌の質の向上」及び「重要な自然・文化環境の保護」の5つの分野について、次に掲げるような様々な提言が掲げられている。

⁴⁵ クレアレポート第198号。なお、転載にあたり一部文章を修正している。

「夏季五輪大会のための環境指針」における提言(抜粋)

●エネルギーの保全

(都市計画と交通計画の統合)

- ・ 競技施設は公共交通システムの近くに設ける。
- ・ 公共交通の利便を増進するため、サテライト駐車場⁴⁶を整備する。
- ・ 五輪会場まで自転車道及び歩道を整備する。

(建物及び都市基盤施設の低エネルギー設計)

- ・ 建物の設計に当たり可能な限り太陽熱利用を取り入れる。
- ・ 適切な開発密度を選択する。
- ・ 熱効率を考慮して材料を選定する。
- ・ 断熱や自然換気を活用する。
- ・ 再生可能なエネルギー資源をできる限り広範に利用する。
- ・ 自然光を最大限に生かした効率の高い照明システムを利用する。
- ・ エネルギー効率の高い設備を利用する。
- ・ 建築には、再生された材料や再生利用が可能な材料を使用する。

●水資源の保全

- ・ 人々や産業界への啓発プログラムを通じて、健全で持続可能な水資源管理を促進する。
- ・ 節水及び水のリサイクル利用に努める。
- ・ 水が再利用不能になることを防ぐため、植栽の維持管理のための殺虫剤使用は最小限にとどめる。
- ・ 処理した雨水・下水のリサイクル利用を推進する。
- ・ 造園設計にあたり、公園、庭園等の植栽には、気候風土に適した植物を優先的に選択することにより、その維持管理のための水使用の節減を図る。
- ・ 節水型設備(節水型トイレ、雨水貯水システム、節水型シャワーヘッドなど)及び適切な散水設備を使用する。
- ・ 食器洗い機、洗濯機その他の水使用設備については、水使用量の少ないものを選ぶ。
- ・ 水供給に係る実際のコストを反映する料金体系を導入する。

●廃棄物の発生抑制及び減量化

- ・ 廃棄物の発生抑制及び減量化の原則に基づいて、総合的な廃棄物管理計画を策定する。
- ・ 紙、ガラス、金属、プラスチック及び有機廃棄物のリサイクルに最大限努める。

●大気、水質及び土壌の質の向上

- ・ 五輪施設の設計において、省エネルギー措置との調整を図りながら、屋内空気循環を最

⁴⁶ 19 頁「⑤駐車場の設置」参照

大限に取り入れる。

- ・ 五輪会場工事の手順・手法を改善し、塗料、カーペット、接着剤、駆除剤などからの有害な気体の発生を最小限に止める。
- ・ 五輪大会のために再開発された旧工業用地について総合的な汚染調査を実施し、適切な汚染除去措置又はリスク軽減措置を講じる。
- ・ 有鉛燃料を使用しない。
- ・ CFC(フロン)、HFC(ハイドロフルオロカーボン)及び HCFC(ハイドロクロロフルオロカーボン)を用いない冷却設備及び冷却技術を使用する。
- ・ PCB(ポリ塩化ビフェニール)、PVC(ポリ塩化ビニール)、塩素漂白紙など、塩素系製品の使用を最小限にとどめ、できれば使用を避ける。

●重要な自然・文化環境の保護

- ・ 自然生態系の循環システムの保全を図る。
- ・ 国際保護条約の適用を受ける絶滅危惧種・生態系を特に重視しつつ、生態系及び種に関する調査を行う。
- ・ 五輪地区における害虫、害獣等の駆除には、非化学駆除剤を使用する。
- ・ 野生生物の生態への影響を最小限にとどめるとともに、原生の植物を保護するため、造園設計において既存の植生を補完するような種を選定して植栽を行う。
- ・ 五輪関係の施設や行事が近隣の住民に及ぼす悪影響を最小限にとどめるための計画を策定する。
- ・ 五輪地区における文化遺産の調査を行う。

第3節 シドニー五輪における環境保全対策の事例

本節では、「グリーンゲーム」を実現するための様々な対策のうち、特に高い評価を得ている「ホームブッシュ・ベイ地区の土壌汚染対策」、「ホームブッシュ・ベイ地区の生態系保全対策」及び「資源利用抑制対策」について、具体的な環境保全対策の例を紹介する。

(事例1) ホームブッシュ・ベイ地区の土壌汚染対策

ホームブッシュ・ベイ地区は、シドニー市の中心から西 16kmに位置し、元々は湿地帯であったが、1880年代半ばに干拓、1948年から60年代に埋め立てが進められ、最終的には総面積 760ha の用地が造成された。その用地は、農場、競馬場、食肉処理場、煉瓦工場、兵器廠など様々な目的に利用されてきたが、80年代から大規模な再開発計画が着手され、工業団地や大規模都市公園などが整備された。20の競技施設・関連施設が建設される五輪主会場地区も、食肉処理場及び煉瓦工場の跡地を再開発したものである。

しかし、ホームブッシュ・ベイ地区の一部は、60年代半ばから70年代にかけて廃棄物最終処分場として使われ、しかも十分な処理が施されずに廃棄物が埋め立てられたため、その廃液が地表水や

地下水にしみ出すなどの環境汚染を引き起こしていた。90年代初めに実施された大掛かりな調査の結果、延べ160haの土地に総量900万トンもの廃棄物が埋まっていることがわかり、これを受け、NSW州政府は1.4億ドルの費用をかけ、オーストラリアでは空前の規模の土壌浄化プロジェクトに着手した。

同プロジェクトを開始するに当たって採択された基本方針は「同地区の汚染を他の地域に転移させない」というもので、汚染された土壌は、環境への影響を防止する措置を講じた上で、地区内で処理することとされた。この「現場封じ込め」の原則に基づいて、次のような措置が講じられた。

- ホームブッシュ・ベイ地区の大部分の土地は制約なく利用できるように、地区内に分散している汚染土壌を掘り返し、4か所に集中して埋め立てる。
- 4か所の埋め立て箇所では、汚染土壌からの浸出液の排水設備を敷設し、廃水は地区内のプラントで処理して下水システムに排出する。
- 埋め立てた汚染土壌の上は、地区内から調達した土で覆い、植栽を行う。
- 植栽には原生の植物を用い、自然の状態に近い(つまり水遣りが少なく済む)植生を再現することにより、埋め立て箇所の土壌にしみ込む水の量を減らす。

この土壌浄化プロジェクトは98年末に完了したが、その間、97年には、かつての野放しの廃棄物処分の後遺症として、ダイオキシン汚染問題も浮上した。調査の結果、地区内の12か所の土壌からダイオキシン(2,3,7,8-四塩化ジベンゾフラン)が検出され、そのうち2か所の濃度は、州環境省の定める土壌安全基準を上回っていた。NSW州政府は、12か所すべてについて汚染除去措置を講じることを決め、基準を上回った2か所については、その上を5m以上埋め立て、さらにその上を1m以上覆土して造園工事を行った。浸出液の排水設備も取り付け、排出された廃水は、検査の上、隣接のプラントで処理している。他の10か所の汚染土壌は、掘り返して、公共アクセスから隔離された区画に封じ込めた。

(事例2) ホームブッシュ・ベイ地区の生態系保全対策

ホームブッシュ・ベイ地区には、シドニー圏では稀少な湿地や自然林が残され、多くの貴重な生態系が存在する。同地区の本格的な生態系調査は92年に着手され、次のような事項が確認された。

- 同地区のマングローブ林はシドニー湾地域で最大規模のもので、多様な水鳥、魚類、甲殻類の生息地になっている。
- 同地区の塩水湿地はシドニー湾地域で2番目に大きく、同地域では珍しい塩水湿地種も生息している。
- 地区内で確認された鳥類は130種に及び、その中には日本、シベリア、アラスカなどから飛来するサギ類の渡り鳥もあり、相互協定により保護されているものも含まれる。
- 地区内に残されたユーカリ自然林には、稀少なオウム類を含む多くの鳥類及び哺乳類が生息する。

- 最も注目されたのは、「絶滅危惧種保護法」で指定されている「グリーン・アンド・ゴールデン・ベル・フロッグ」(写真)というオーストラリア原生種のカエルのコロニーが煉瓦工場跡地で発見されたことである。このカエルは、かつてはオーストラリア南東部の湿地に広く生息していたが、開発の進行により生息地が激減し、NSW州では40か所が残るのみになっていた。ホームブッシュ・ベイ地区での生息状況について徹底した調査を行った結果、約300匹の生息が確認された。



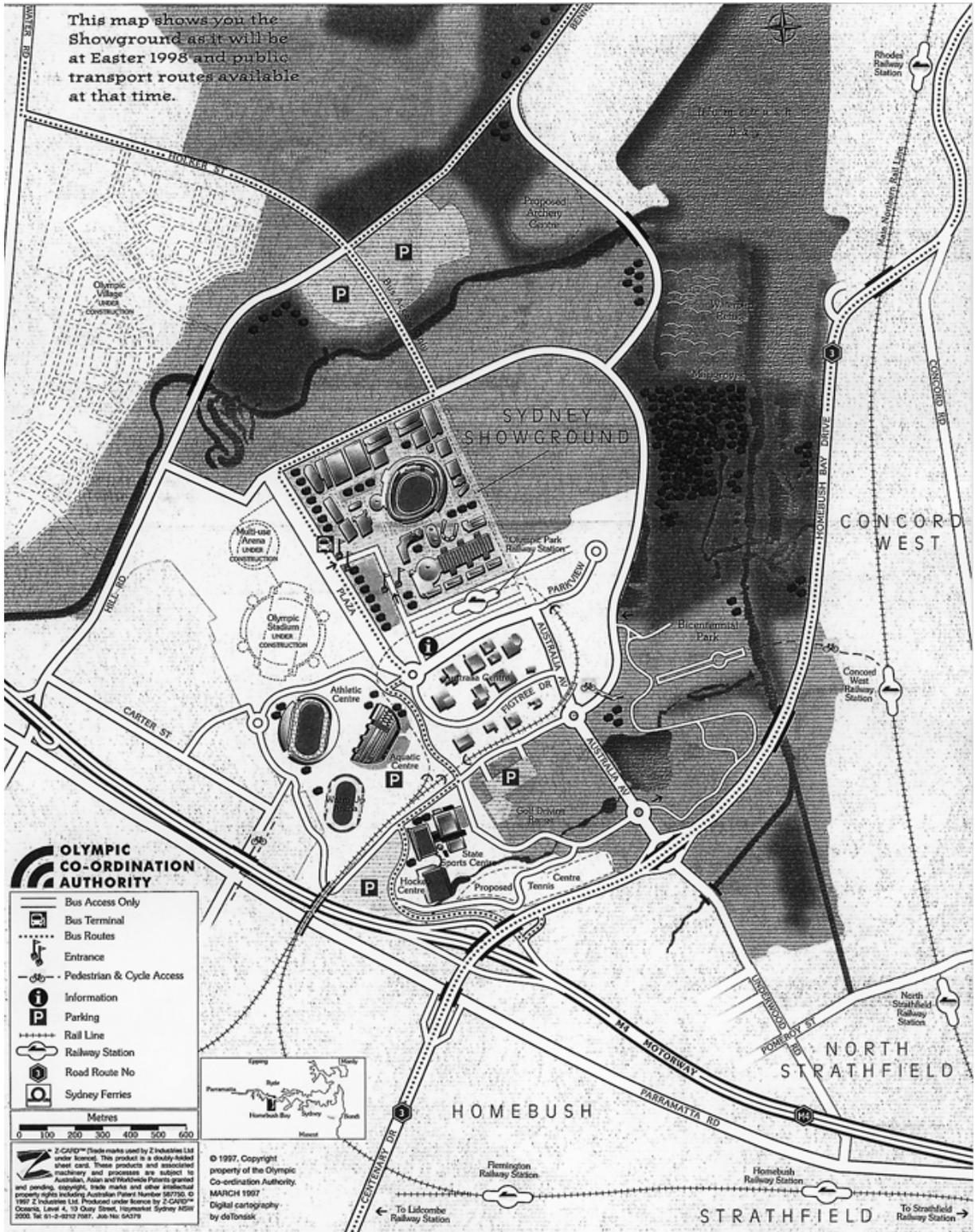
グリーン・アンド・
ゴールデン・ベル・フロッグ

この貴重な生態系を可能な限り保全するため、地区内に残る湿地やブッシュ(ユーカリの自然林)の多くは保護区域として指定し、自然公園の中に囲み入れることとした。「ミレニアム・パークランド」と名付けられるこの自然公園は、ホームブッシュ・ベイ地区の半分以上の440haを占め、シドニー圏の公園としては、最大規模のものになる。

そのほか、同地区の生態系保全対策として、例えば次のような措置が講じられた。

- (事例1)で述べた土壌汚染対策は、湿地や小川の浄水機能の回復にも寄与し、生態系にも好影響を与えた。また、コンクリート壁により変更されていた本来の水の流れを復元するため、計画的にコンクリート壁を除去し、水路の拡張・迂回工事を行った。魚の道を確保するための措置も講じられた。
- 湿地の復元を促進するため、原生種の植物を駆逐する外来種の雑草を手作業により除去するとともに、在来種の種子の撒布を行った。
- 自然の植生の再生を助長するため、新しい植栽技術も導入された。在来種の草本を造園に用いるのはコストが高くつくが、人工栽培によって苗を大量に低コストで供給することに成功した。稀少な塩水湿地種については挿し木や種子栽培により、マングローブについては幼苗の移植により、増殖を助長した。
- 野生動物の移動を保護するため、自然林の囲りに緩衝帯を整備した。
- グリーン・アンド・ゴールデン・ベル・フロッグの保護については、旧煉瓦工場の生息地はミレニアム・パークランドの一部に取り込み、予定されていたテニスコートの建設は他の地区に変更した。カエルのコロニー間の安全な移動を確保するため、その通り道を通る道路には、カエルが道路に飛び出すことを防ぐフェンス及び安全に道路を越えられる橋やトンネルを設置した。
- 地区内の鳥類生息数の監視を自然保護団体「Birds Australia」に委嘱した。

ホームブッシュ・ベイ地区の概図



(事例3)シドニー五輪における資源利用抑制対策

五輪環境指針の基本理念である「持続可能な開発(ESD:ecologically sustainable development)の原則」においては、水、化石燃料などの資源利用の抑制が大きなウエイトを占めている。この分野の具体的な対策としては、次のようなものがある。

【節水対策】

- 植栽に外来種の植物を用いると、その維持管理において大量の水遣りが必要になりがちである。このため、地区内の植栽には、原則として、オーストラリアの気候風土に適応し、水遣りが少なく済む原生種の植物を用いることとした。原生種を植栽に用いるとコスト高になるが、新しい栽培技術により苗を大量生産することで、コストの引き下げに成功した。また、地下水の汚染を防ぐため、化学製品の肥料や殺虫剤の使用をできる限り避けている。
- 地区内に設置したプラントで処理された雨水や下水を貯水し、再利用する大掛かりな水再利用システムを導入した。例えば、開閉会式、陸上競技、サッカー決勝などの会場となるスタジアム・オーストラリアでは、アーチ形の屋根に落ちた雨水を効率的に集めて巨大なタンクに貯蔵し、グラウンドの散水やトイレに使用する。このシステムの導入により、上水道の使用量を半分に削減した。

【省エネ対策】

- 五輪公園に隣接し、約 15,000 人の選手・役員を収容する選手村(大会後は住宅として分譲)は、建物の向きや形状の工夫と断熱工事により太陽熱を最大限に活用し、設備にも最新の省エネ型のものを採用して、一般の住宅に比べ、60%以上エネルギー消費量を削減した。特に、屋上に設置したソーラーパネルにより電力と温水(ガス併用)を供給するシステムを導入したことで、電力使用量を75%節約した。
- スタジアム・オーストラリアでは、出力 500 キロワットのコジェネレーション・プラントを2機設置し、天然ガスで電力と温水を同時に供給する。これにより、一般の電力を使用する場合に比べ、温室効果ガスの排出を40%抑制した。また、電力消費量の大きい冷房の使用を極力抑えるため、同スタジアムは、自然換気が最も効果的に生かされる開放型構造になっている。
- 水泳会場となるシドニー国際水泳場には、エアコンの使用を最小限に止めるため、冷気を観客席に限定して送ることができる冷房システムを導入した。
- 電灯使用を抑制するため、各競技施設は、自然光を多く取り入れた設計とし、また、街路灯にソーラーパネルを設置して、昼間に蓄えた電気を夜間の照明に使用している。

【リサイクル対策】

- 施設や関連インフラの整備に必要な材料の調達に当たって、「ライフサイクル・アセスメント」(使用後の処理・処分に要するコストも含めて材料のコストを評価する。)や「エコレイトイング」(ESD原則に著しく反する材料をリストアップし、その使用を避ける。)などのESD手法を導入した。

- 各種の建設材料には、リサイクルされた材料をできるだけ使用した。例えば、取り壊した旧食肉処理場の建物のコンクリートや煉瓦は、細かく砕いて道路や歩道の基礎材として再利用した。スタジアム・オーストラリアの座席には、プラスチック廃材混合のリサイクル素材を用いたものを採用した。
- 刈った草や枝などは「マルチ(樹木の根元の地面を覆うのに使われる材料)」に加工処理し、区域内の植栽に用いている。マルチは土壌水分の蒸発を防止するので、植栽の水遣りの節減にも資する。

第4節 環境重視で業者も選定

五輪環境指針の遵守を民間業者にも徹底するための措置として、五輪関連プロジェクトを発注する業者を選定するための入札手続において、OCA は、施設の設計、工事の施工及びプロジェクトの監理に関する標準仕様書に具体的な環境配慮事項を示し、各業者の環境配慮対応能力を審査するため、入札に参加する業者に次のような事項に関する書類の提出を求めた。

- ・ 当該業者の環境基本方針及び環境マネジメントシステム(ISO14001 の基準に相当する内容を備えていることが必要)
- ・ 当該業者が実践している環境配慮対策(ごみ減量化・リサイクル対策、大気・水質汚染防止対策など)及び過去2年間における環境配慮に関する実績
- ・ 当該業者の環境配慮体制(法令・規制の遵守を確保するための措置、環境配慮に関する監督、教育訓練、モニタリングなど)
- ・ 当該業者が応札するプロジェクトに係る環境マネジメント計画の骨子

最後の「環境マネジメント計画(Environmental Management Plan)」は、生態系の保全、資源の節約、汚染の防止、交通管理などについての目標及びその達成方法を説明するもので、当該プロジェクトを落札した業者は、提出した骨子に基づき詳細計画を作成して承認を受け、その計画を実行することが義務づけられた。

第5節 「グリーンゲーム」の評価と意義

五輪環境指針の作成に協力した環境保護団体グリーンピースは、指針の遵守状況について独自の審査を行い、選手村のソーラー・デザインを世界でも最高の水準と賞賛したほか、公共交通計画、土壌浄化対策などについて高い評価を与えたが、一方でいくつかの問題点も指摘し、特にHCFC(ハイドロクロロフルオロカーボン)が各種施設の冷房システムに使われていることを厳しく批判した。HCFC は代替フロンとしてエアコンや冷凍庫の冷媒に広く使われているが、ある程度オゾン層を壊す効果がある。五輪環境指針では、特に強いオゾン層破壊物質である CFC だけでなく、HCFC や HFC(オゾン層は傷つけないが、非常に高い温室効果を有する。)も使用しないことを明記している。グリーンピースは、環境への影響が少ない代替冷媒としてアンモニアがあると指摘しているが、OCA は、可燃性と有毒性のあるアンモニアを冷媒としたシステムは安全性の観点から採用できなかったと説明している。

この問題を含めいくつかの課題は指摘されているものの、シドニー五輪の環境保全への取組姿

勢とその成果は、専門家や環境団体から高く評価され、少なくとも計画、建設及び施設設備の面では、今後の五輪のモデルを示すことに成功したと言えそうである。

「グリーンゲーム」のもう1つの画期的な意義は、五輪主会場となるホームブッシュ・ベイ地区の開発が「生態的に持続可能な開発(ESD)の原則」を基本理念として進められたことである。大規模な都市再開発事業への同原則の応用としては、オーストラリアでは初めての、世界でも先駆的なケースであったが、この観点からも、土壌汚染対策や生態系保全対策などの分野で、ESDの観点からも顕著な成果を収めたと評価されている。

(参考2) 五輪記事抜粋 (1998年8月～)

- 1 五輪観戦チケットの料金と販売方針の発表(98.8.27 SMH)
- 2 五輪まであと2年(98.9.15 AUS)
- 3 五輪の観光誘発効果に関する予測(98.11.17 AUS)
- 4 1998年現在の五輪収支見通し(99.1.25 SMH)
- 5 五輪開催ノウハウの販売計画(99.3.4 AUS)
- 6 五輪チケットの販売状況と問題点(99.10.12 SMH)
- 7 シドニー五輪の観光への波及効果(00.1.21 FIN)
- 8 シドニー五輪のユニークな交通・宿泊・警備対策(00.4.5 SMH)
- 9 シドニー五輪のボランティア事情(00.4.4 SMH、SOCOG 資料ほか)
- 10 大会後のシドニー五輪施設維持費への懸念(00.5.30 SMH)
- 11 シドニー五輪の舞台裏(00.8～9 各紙、SOCOG 資料)
 - (1) 会期中のホームレス対策
 - (2) 五輪ボランティアで大学の単位
 - (3) 大会直前のバス輸送混乱に应急措置
 - (4) 「ダフ屋」商売は不調
 - (5) フル稼働でゴミ回収
- 12 シドニー五輪の収支決算と五輪公園の将来像(00.12.15 SMH)
- 13 ホームブッシュ・ベイ五輪跡地の都市化計画案(01.6.20 SMH)

1 五輪観戦チケットの料金と販売方針の発表(98.8.27 SMH)

シドニー五輪組織委員会は、8月26日、各イベント・競技の観戦チケットの料金及び販売方針を発表した。最も高額なのは開会式及び閉会式の1,382ドル、各競技のチケットの価格は、人気種目かどうか、また同じ種目でも予選か決勝戦かにより大きく異なり、最高は水泳、陸上競技、バスケットボール、体操の決勝戦の最も良い席の455ドル、最低は野球などの10ドルである。チケットの総枚数は960万枚の予定で、そのうち500万枚は豪州国内で一般に販売され、残りは国内外のスポンサー、報道機関、五輪委員会関係者、五輪・クラブ会員等に割り当てられる。組織委員会は、総額6億ドルの売上を見込んでいる。

豪州国内でのチケット販売については、すべての購入希望者が平等に取り扱われるように、コンピューターによるランダム抽選方式が用いられる。各競技につき1人6枚までチケットの購入を申し込むことができるが、開会式と閉会式については1人4枚までに制限される。1999年の6～7月頃に購入応募用紙が配布され、45日間の応募期間が設定される予定である。応募者は、第1希望種目のチケット代金相当額を申込時に全額払い込む必要があるが、抽選にもれた場合は、返金又は他の競技種目のチケットへの振替を選択できる。購入希望者が少なく、枚数が余ったチケットは、インターネット、チケット・テレフォン・センター、チケット販売所を通じて販売される。

「金持ちだけのための五輪ではなく、平均的オーストラリア人のための五輪」という開催方針を受け、低所得者や学童を主な対象とする、低額(10～19ドル)の「五輪体験チケット」も150万枚用意される。ただし、すべての競技についてこのチケットが設けられているのではなく、比較的人気のないアーチェリー、射撃、ハンドボールといった競技に限られており、水泳、体操などの人気競技については、練習の見学についてのみである。所得調査に基づいた低所得者向けチケットを導入するという案も一部にあったが、手続が煩雑過ぎるとの理由から実現しなかった。なお、開会式及び閉会式については、低所得者でも購入しやすい低料金席(105ドル)が、それぞれ10,000席及び5,000席用意される。

2 五輪まであと2年(98.9.15 AUS)

9月15日で、シドニー五輪の開会式までちょうど2年となった。現時点で想定されている大会の規模、それに開催までの主要な日程をまとめると、次のとおりである。

200か国、10,200人の選手、5,000人の役員が参加。取材に当たる報道関係者は、15,000人以上。

- 観光協会の予想では、選手団、報道陣、観客を含め、海外から132,000人がシドニーを訪問。
- 募集するボランティアの総数は50,000人。そのうち4,500人は医療関係者。
- 選手村で用意する食事は、毎日60,000食。
- 情報通信機器としては、パソコン6,000台、テレビ11,000台、無線機12,000台、電話15,000回線を設置。ケーブルの総延長は、約2,000km。
- 一日60万人の観客の輸送手段として、8両編成列車50台、バス2,500台、フェリー10隻、借上げ車両4,500台を用意。
- 警備要員は12,000人。内訳は、警察官が4,500人、ボランティアが3,500人、民間警備員が4,000人。
- 開催までの主要な日程：

1998年11月－1999年1月	アート・フェスティバル開催
1999年3月1日	スタジアム・オーストラリアのオープン
同年9月	各国五輪委員会への招待状の発送
2000年5月12日	聖火リレー開始
同年9月2日	選手村、報道センターのオープン
同年9月15日	開会式

3 五輪の観光誘発効果に関する予測(98.11.17 AUS)

シドニー五輪が豪州の観光市場にどのような影響を及ぼすかについて、連邦政府の助成を受けて「観光予測協議会(Tourism Forecasting Council)」がまとめた報告書が発表された。「五輪効果(The Olympic Effect)」と題するこの報告書によれば、五輪の開催及び宣伝効果により、国外からの観光客は大幅に増加するが、国内観光については、開催地のNSW州への観光客が増える分、他の州への観光客が減少するので、国内観光市場全体の規模は五輪により拡大することはないと予

測している。

具体的には、2000年から2001年の2年間における各州の国内観光客数の動向は、

- ・ NSW州では30万1,000人の増加
- ・ QLD州では9万8,000人の減少
- ・ VIC州では7万5,000人の減少
- ・ SA州では3万6,000人の減少
- ・ ACTでは3万2,000人の減少
- ・ WA州では2万3,000人の減少
- ・ TAS州では2万3,000人の減少
- ・ NT準州では1万4,000人の減少

と予測されている。特に、五輪開催の翌年の2001年は、NSW州も含め、どの観光地でも国内観光客は減少すると見られている。

一方、国外からの観光客については、五輪の開催及び宣伝効果により、開催年の2000年には34万2,000人、1997年から2004年の間で160万人の新規需要が創出され、さらに、そのうち50%はQLD州、25%はVIC州、9%はNT準州にも足を伸ばすと見込まれている。

以上の結果、豪州の観光産業全体としては、五輪の観光誘発効果により、売上高が61億ドル、雇用数が15万人増加する——報告書はそのように予測している。

4 1998年現在の五輪収支見通し(99.1.25 SMH)

SOCOG及びNSW州それぞれの1998年現在の五輪開催経費収支見通しについて、NSW州監査長官(Auditor-General)が報告書を発表した。全体として、「過剰な支出」や「無駄遣い」は特に指摘されていないが、見通し通りの収支が達成できるかどうかについて、いくつかの不安材料が挙げられている。

SOCOGの予算収支見通しは次のとおりで、収入が25億9,700万ドル、支出が25億6,700万ドル、差引き3,000万ドルの黒字を見込んでいる。

SOCOG 予算収支見通し(1998年現在) (単位:百万ドル)

<u>収入</u>	<u>2,597.0</u>	<u>支出</u>	<u>2,567.0</u>
うちスポンサー収入	873.7	うち競技運営関連	883.0
商品売上収入	65.2	会場運営関連	526.7
チケット販売収入	600.9	政府等への支払	387.8
テレビ放映権収入	1,032.2	放送関連	195.6
		選手村関連	180.6

この収支見通しについて監査長官報告書は、収入見込額の38.3%はまだ確定しておらず、特にチケット販売収入とスポンサー収入をどれだけ確保できるかは不透明であるとし、また、「3,000万ドルの黒字」という数字については、五輪開催に必要な経費をすべてSOCOGが負担しているわけではないので、「多分に象徴的なもの」だと述べている。

SOCOG が 1998 年収支見通しに目標総額 4,500 万ドルの経費削減策(主に人件費の圧縮と資材調達集中化)を織込んだことには一定の評価を与えているが、これから最終的に締結する契約も多く、業者が契約価額にプレミアを上乗せする動きが出てくると、節減目標額の達成が困難になると警告している。

一方、NSW 州政府は、五輪開催経費のうち一般財源により同州政府が負担するのは、1998 年時点で総額 16 億ドルであると発表した。報告書では、「容易に定量化できる間接コスト」を含めると、総額は 23 億ドルに膨れると試算している。また、今後開催計画がさらに具体化してくると、多くの項目(特に 1 億 7,700 万ドルと見込んである警備関係費)で支出額が見通しを大きく上回る可能性があるという指摘している。

5 五輪開催ノウハウの販売計画(99.3.4 AUS)

SOCOG は、五輪開催のノウハウや「秘訣」を伝授する詳細な「仕様書」を将来の開催都市に販売する計画があることを明らかにした。SOCOG 自身、アトランタから推定 50 万ドルで五輪開催ノウハウを購入したが、SOCOG 事務局長によれば、実践的な指針は得られなかったため、シドニーは事実上ゼロから始めなければならなかったという。これに対して、SOCOG の売り出す「仕様書」は、わかりにくい文書を寄せ集めたようなものではなく、6 年間に及ぶ五輪開催準備の経験を、セミナー、レクチャー、コンタクト先の紹介、マニュアルなど、多様な手法で伝える実用的な「パッケージ」で、同事務局長は、「これを利用すれば、計画立案に要する期間を 12 か月短縮できる」と、その効能を強調している。

「仕様書」の価格は未定であるが、その売却益は、約 2 億 1,000 万ドルと言われる財源不足の穴埋めの一部に充てられる。しかし、今のところ引き合いはないようで、2006 年コモンウェルス(英連邦)競技大会(4年に1回の開催)の招致が確実視されているメルボルンも、「別にシドニーに助けてもらわなくても、準備は非常に順調に進んでいる」と、そっけない反応を示している。

6 五輪チケットの販売状況と問題点(99.10.12 SMH)

豪州国内一般向けに販売される五輪チケットの第 1 次購入申込は 7 月 16 日に締め切れ、その抽選結果が 10 月上旬から中旬にかけて約 32 万人の応募者に通知された。この機会に、シドニー五輪のチケットの販売方法や販売状況、指摘されている問題点などを整理した。

(1) チケットの価格

チケットには、最多で 4 段階のランクが設定されており、ランクによって価格が異なるが、ほとんどの席は A チケット席に指定されており、例えば、開・閉会式の場合、総数 11 万枚のうち 9 万 1,000 枚が A チケットで、D チケット席は 5,000 枚しかなく、また、最も人気の高い水泳の場合は、80%が A チケットである。

価格は、競技の人気度、予選・決勝の別などによっても差があり、全チケット中、最も高額なのは開・閉会式の A チケット(1,382ドル)である。競技チケットでは、最高が 455ドル(男子バスケットボール及び水泳の決勝)、最低が 17ドル(馬術の予選)で、70%のチケットは、60ドル以下の価格に設定された。

(2) 国内一般向けチケットの販売方法

一般向けに売り出されたチケットは、当初 52%を国内で一般販売するとしていた⁴⁷が、実際は総数の 36.5%に当たる約 350 万枚となった(そのほかのチケットの割当は、学校・福祉団体向けの低額チケット(15ドル)が 15.5%、メディア用が 12%、国内スポンサー向けが 11%、海外向けが 8%など)。

申込方法は、5月30日付の朝刊に折り込まれた「チケットオーダーブック(日程表兼申込書)」を使用しての郵送申込又はインターネットによる申込に限定された。申込書には第1希望から第3希望まで記載できるが、人気競技のチケットの申込は1人当たり6枚(開・閉会式については4枚)までに制限された。

申込みと同時に第1希望チケットの価格の総額をクレジットカード(大会スポンサーであるVISAカードのみ)又は小切手で払い込む必要があり、人気チケットを申し込む場合は相当の額になることもあって、申込みの出足は鈍かったが、7月16日の締め切りが迫るにつれて応募が急増し、最終的には32万1,000件に達した。申込件数の州別割合は、NSW州が半分近くを占め、以下、VIC州(20%)、QLD州(13%)、SA州(6%)、WA州(2.5%)、TAS州及びNT準州(各1.3%)の順であった。

(3) 抽選の方法と結果

用意された枚数を上回る申込があったチケットについては、「カスケード(段々滝)」と呼ばれる方式の抽選により購入者が決定された。この方式は、例えば、開会式Aチケットの抽選に漏れた申込は、開会式のBチケットに残余があれば自動的にBチケットの抽選に回され、それにも漏れた場合はCチケット、さらに申込書に記載された第2、第3希望のチケットの抽選へと順次回されるといものである。第1希望のチケットの抽選に漏れ、それより低額のチケットが割り当てられた場合は、差額が払い戻される。

抽選の結果、32万1,000件のうち、4分の3の申込には何らかのチケットが割り当てられたが、残る4分の1は、希望したチケットすべてにはずれた。競争倍率が最も高かったのは、開・閉会式、水泳決勝、陸上のいくつかの種目などで、開会式については、数の少ない低額のDチケット(105ドル)への応募が特に多かった。そのほか、サッカー、男子バスケットボール、ホッケーの人気も高かった。最も人気が低かったのはレスリングで、グレコローマンでは82%、フリースタイルでは77%のチケットが売れ残っており、人気種目と予想されたシンクロナイズド・スイミングも、応募が低調で76%のチケットが売れ残った。

(4) 売れ残りチケットの取扱い

応募は盛況だったものの、人気競技に集中したため、350万枚の一般向けチケットのうち200万枚が売れ残った。第1次申込みによりSOCOGには3億5千万ドル(約250億円)が払い込まれたが、このうち2億ドルは抽選漏れの分で、払戻しの対象になる。SOCOGは、総数960万枚のチケットの売上で約6億ドル、うち国内一般販売を通じて2億4千万ドルの収入を見込んでおり、売上目標を達成するためには、残っているチケットの販売促進を強化する必要に迫られている。

第1次購入申込者には、抽選結果の通知と併せて、残っているチケットを対象とする第2次購入の申込用紙が全員に送付された。SOCOGは、第2次購入申込促進策として、第1次申込でチケットを購入できた競技種目に追加申込みする場合は、当選すれば最初の分と並びの席を割り当て

⁴⁷ 49頁参照。

ることを発表した。第2次購入申込は10月22日で締め切られたが、SOCOGは、この2回目の販売で4千万ドル以上の売上を期待している。

その後売れ残ったチケットはチケット販売所を通じて一般販売され、大会期間中は、会場でも販売される。

(5) チケット販売をめぐる問題点

- 開・閉会式にDチケットを設けたのは、低所得者にも観覧の機会を与えるという趣旨であったが、結果的に多数の人がDチケットを第1希望として申込んだため、その趣旨は必ずしも生かされなかった。
- 陸上競技で最も人気の高かった種目は、豪州のメダル獲得の期待が高い女子400m決勝であったが、第1次申込みが締め切られた後、選手のコンディション調整を理由に決勝と準決勝の間に1日の休養日を設けることを国際陸上連盟が要請し、競技日程の変更を余儀なくされたため、同種目を目当てに申し込んだ人々から抗議が殺到した。混乱を避けるため、最終的に女子400m決勝については当初の日程どおりに行うことで決着した。
- 第2次購入申込については、抽選でなく先着順にチケットを割り当てる予定だったが、第1次申込者への第2次購入申込用紙の到達に最長で5日の差が生じ、公平性に欠けるという抗議が出ている。SOCOGでは法的観点からの判断を待って、場合によっては1回目と同じように抽選で購入者を決めることも検討している。
- SOCOGでは、一般向けに売り出されたチケットは総数の36.5%であると発表していたが、人気種目は、例えば、開会式は23%、閉会式は20%、水泳決勝は17%、体操は9%など、その比率が非常に小さく、しかも多くのチケットが富裕な会員制クラブなどへの高額販売(種目によっては一般販売価格の4倍以上)に割り当てられていたことが報道され、猛烈な反発を招いている。事前にチケットの配分と販売に関する正確な情報が消費者に提供されなかったことは、連邦公正取引法に抵触する可能性があるという公正取引委員会の指摘も受け、SOCOGは公式に謝罪するとともに、第3希望のチケットについては、代金の払戻しに応じる措置を取ることを余儀なくされた。

7 シドニー五輪の観光への波及効果(00.1.21 FIN)

豪州観光委員会の試算では、シドニー五輪が開催されることの波及効果として、1997年から2004年までの間に、国外からの観光客は計160万人増加し、61億ドルの外貨収入が豪州にもたらされると見られている。

しかし、豪州観光業界は、一時的な市場拡大効果以上に、五輪を契機に世界の豪州を見る眼が変化することに大きな期待を寄せている。海外の人々の抱く豪州のイメージでは、コアラ、カンガルー、それに(ヒット映画「クロコダイル・ダンディー」の主人公のような)教養が高いとは言えない素朴な人々の住む国というような固定観念が未だに強い。観光関係者は、五輪の機会を通じて、豪州のより多様な側面—例えば、上質の料理やワイン、アジア太平洋地域の優れた才能が集まる「知的な」国であること—を世界にアピールすることにより、多彩な観光の発展を促進するとともに、ビジネスや留学を目的とする旅行者の拡大も図りたいと考えている。

なお、豪州観光委員会では、五輪開催年の2000年には海外から500万人が豪州を訪れ、その

後も年平均 7.3%のペースで増加し、2008 年には、国外からの総旅行客数は 840 万人、それによる外貨獲得高は 330 億ドルに達すると予測している。

※(追記) 2001 年 7 月政府統計局 (ABS) から発表された 2000 年度 (2000 年 7 月～2001 年 6 月) の年間来豪者は 510 万人 (前年度比 + 約 9%) となり、史上初めて 500 万人を突破した。

8 シドニー五輪のユニークな交通・宿泊・警備対策 (00.4.5 SMH)

9 月の五輪まで半年を切り、開催が近づくにつれ、大会運営の詳細を伝える報道が増えている。その中から、特色のある交通・宿泊・警備対策を紹介する。

◆ 公共交通機関を最大限に活用する観客輸送

開催期間中、メイン会場となるホームブッシュ地区には 1 日 50 万人、ダーリング・ハーバー会場には 10 万人、シドニー西部会場には 7 万人の人出が予想されている。いずれの会場にも一般観客用の駐車場は設けず、観客には電車又は臨時バスの公共交通機関を利用してもらう。電車・バスとも開催期間の 16 日間を通じて 24 時間体制で運行され、競技チケット所持者は、当該競技の開催日及び翌日の午前 4 時まで、これらの公共交通機関を無料で利用できる。

公共交通機関へのアクセスが不便な観客のためには、駅やバス停の近くに臨時駐車場を設け、そこに運転してきた車を置いて公共交通機関を利用する「パーク・アンド・ライド・システム」を導入する。シドニー中心部及びその近郊の 26 か所の拠点に臨時駐車場を設け、計約 3 万台の駐車スペースを確保する予定である。競技チケットがあれば、これらの駐車場は、1 か所を除き無料で利用できる。

大会期間中は、シドニー市街にも多くの人出による混雑が予想されるため、事業活動への影響を抑えるための各種の対策も準備されており、その 1 つは、シドニー中心部を循環する無料バスを午前 9 時 30 分から深夜 1 時までの間、5 分おきに運行するというものである。そのほか、タクシー乗り場の増設、生鮮品配達車両の中心部乗り入れ時間の 2 時間延長 (渋滞緩和のため、通常は、配達車両の中心部乗り入れは、午前 10 時までには制限されている。) なども予定されている。

◆ 民間病院も宿泊施設として利用

シドニーの 7 つの民間病院で、病室の一部 (ベッド総数 400) を五輪開催時の宿泊施設として提供することが検討されている。これは、大会期間中は多くの医療関係者が休暇を取り、緊急治療以外の患者数も減少するという見通しに基づくアイデアで、主に病院関係者の家族や友人の宿泊を対象とし、ベッドのほか、朝食、駐車場、電話、テレビなどのサービスも含め、シングルは 1 泊 75 ドル、家族向けの 6 ベッド室は 240 ドル程度の料金で提供する。ある病院の担当者によれば、「(宿泊施設としての利用は) 患者の親族が病院に泊まるのと同じようなもので、入院患者のプライバシーの保護に十分注意すれば問題はない」としている。

もともとシドニー五輪組織委員会 (SOCOG) が病院側に、空き病室を大会関係者の宿泊施設として利用できないかと打診したことが、この奇抜な計画が持ち上がる発端になったが、SOCOG によれば、大会関係者の宿泊に関しては、「従来型の宿泊施設」で対応できる見込みである。一方、公立病院の関係者は、「公立病院の病床は慢性的に不足しており、宿泊施設として提供できるような

余裕はない」とコメントしている。

◆ 民間や自治体の警備員にも雑踏整理の権限

営業規制等に関する大会期間中の特例を定めた「五輪特別措置法案(the Olympics Arrangements Bill)」が NSW 州議会に提出されたが、同法案には、各会場における雑踏整理に関して、警察官だけでなく民間警備会社や自治体の警備員にも、一定の強制権限を付与することが盛り込まれている。この特別措置に対しては、人権グループなどから乱用を危惧する声が上がっているが、州政府は、「五輪は特別な規制が必要な特別の時」であるとして理解を求めている。

五輪期間中の特別措置としては、そのほかに次のようなものが導入される予定である。

- 警察は、競技会場から強制的に退去させられる者の写真を撮影し、個人情報^{ひんしゆく}を収集することができる。
- シドニー圏の銀行やデパートの営業時間を延長し、深夜や週末の営業も認める。
- アトランタ五輪で無秩序な路上販売が輦^{ひんしゆく}を買ったことを踏まえ、会場や公共交通ルートに近い場所での路上販売を全面的に禁止する。
- 自動車利用規制策の一環として、駐車場の無許可営業に対する罰金を大幅に引き上げる。

9 シドニー五輪のボランティア事情(00.4.4 SMH、00.6.15 AUS、SOCOG 資料)

「五輪に訪れた選手や観客が最初に会うのがボランティア、最後に会うのもボランティア」と言われ、特に海外からの訪問者にとってはまさに「シドニーの顔」であり、ボランティアの質は大会の評価を左右する重要な要素である。アトランタ五輪では、ボランティアの多くが休暇中の大学生で、地理に不案内だったり日が経つにつれて欠席者が続出するなど、ボランティア計画の杜撰さが不評を買ったが、シドニーとしてはその失敗は繰り返したくないところである。

1 つの強みは、豪州には、消防団、災害救助隊など、伝統的にボランティアを中心とする防災・救急組織が発達していることで、実際、五輪ボランティアには、それらのメンバーが何千人も参加する。若干の不安材料は、豪州統計局の調査によれば、NSW 州は各州の中でボランティア活動への参加率が最も低いことで、最も高い SA 州(28%)の半分以下の 12%である。

大会に必要なボランティアの総数は、1998 年末時点での見積りで、五輪に 40,000 人、パラリンピックに 10,000 人とされていたが、6 月 14 日、SOCOG は五輪に必要なボランティア数を 40,000 人から 47,000 人に、パラリンピックに必要なボランティア数を 10,000 人から 15,000 人に修正した。しかし、五輪まで約 90 日の段階で、五輪で 10,000 人、パラリンピックで 2,000 人が不足している。

2000 年 4 月現在のデータでは、応募者の 75%は NSW 州在住者、年齢別では、55 歳以上の応募が 22%と最も多いが、18-24 歳 21%、25-34 歳 18%、35-44 歳 19%、45-54 歳 20%と、ほぼ万遍なく全年齢層にわたっている。ボランティアが従事する業務は 30 種類以上あり、動員されるボランティアの半数には、語学、医療などの何らかの専門技術が求められる。

シドニー五輪のボランティアの「勤務条件」をまとめると次のとおりである。

- 1 日 8 時間、10 日以上、勤務する。NSW 州政府は、同政府職員が大会ボランティアとして参加するため 5 日以上の有給休暇を取得する場合は、5 日間の特別休暇を付与する措置を講じている。
- 報酬は支給されないが、会場までの往復公共交通費は無料、ユニフォーム(スポンサーは、衣

服はボンズ、帽子と靴はナイキ)、食事・飲料(4 時間以上勤務する場合)は支給され、感謝状が授与される。バルセロナ大会では、ボランティアに無料観戦チケットが配付されたが、原則としてそのような特典はない。

- NSW 州 TAFE(州立高等専門学校)が行う 3 回の研修を受講することが義務づけられる。研修は、オリエンテーション研修、会場研修、業務研修に分かれ、チーム・リーダーを務めるボランティアは、そのほかイベント・リーダーシップ研修も受講する。これらの研修は 2000 年 6 月から 10 月にかけて実施されるが、業務によっては既に昨年からの訓練を開始しているボランティアもあり、例えば運転ボランティアは、何か月にもわたって、運転ルートを繰り返し練習している。
- 有給スタッフの場合と異なり労務災害は適用されないが、事故の場合は保険でカバーされる。

10 大会後のシドニー五輪施設維持費への懸念 (00.5.30 SMH)

シドニー五輪のために建設された各種施設の大会後の維持費に対する懸念が既に高まっており、NSW 州政府は、その対策の基本戦略を検討する委員会を設置することを決めた。委員長には、五輪施設の整備を担当する OCA のリッチモンド事務局長が就任する。

最重要課題は、五輪主会場となるホームブッシュ・ベイ地区への公共交通に対する州政府の補助の問題である。これまで同地区で開催された大きなイベントでは、臨時バスの運行等の経費について、各イベント平均で納税者 1 人当たり 12 ドルの公費補助が行われている。また、1 億ドルをかけて既存鉄道路線からのループ線と新駅を建設するなど、同地区へのアクセスには、公共交通を最大限に利用することを前提にして整備が進められてきたが、大会後は、各施設の近くに大規模駐車場を設置しなければ、活発な商業利用を期待できないという声が上がっている。

同地区の各施設の採算性にも不安が持たれている。特に、体操やバスケットボールの会場となる屋内競技場の「スーパー・ドーム」(21,000 席)は、総建設費約 2 億ドルのうち 1 億 4,500 万ドルを州政府が負担し、完成後 30 年間は建設を担当した民間企業が所有するという BOOT 方式により整備され、1999 年にオープンしたが、コンサートなどのイベントの誘致に苦戦を強いられており、地区内に各種の娯楽施設を総合的に整備しなければ、シドニー中心部のイベント会場に太刀打ちできず、無用の長物と化する可能性が指摘されている。ホームブッシュ・ベイ地区以外の施設では、ホームシュレイ公園の馬術競技場やペンリスのレガッタ・センターの将来利用も大きな課題になっている。

大会後の施設維持費の公費負担は、現時点では年間 4 千万ドルと見込まれているが、さらに膨らむことも予想され、年間予算が 8 千万ドル程度の州スポーツ省がそれらの施設を運営するのは困難で、OCA の組織を再編して、大会後の施設管理を担当する新機関が設置される可能性が高いと見られている。

11 シドニー五輪の舞台裏

(1) 会期中のホームレス対策 (00.6.19 SMH, 00.7.28 SMH, 00.8.30 SMH, 00.10.31 SMH)

前回のアトランタ大会では、五輪開催期間中、市街美化の見地からホームレスをバスで強制的に市外に移送する措置が講じられ、五輪精神に反する非人道的な扱いだという批判を受けた。その教訓を踏まえ、OCA は、州住宅省や福祉団体の代表と協議の上、五輪開催都市としては初め

て、会期中のホームレスの取扱いに関するガイドラインを作成し、適切な対応の徹底を図った。

同ガイドラインは、ホームレスの人々が当局の不当な干渉を受けることなく、市街を自由に動き回る権利を保障することを目的とし、五輪に関連する公共の場所の秩序維持に当たる権限を有する各機関(警察、シドニー市、シドニー植物園、SOCOG、シドニー湾岸管理局及び住宅省)の職員に遵守が義務づけられており、これらの職員は、救援を求めたり、他人に迷惑をかけていない限り、ホームレスの人々に干渉してはならないと定めている。

また、シドニー市は、2000年度から導入した独自のホームレス救済事業(年間予算36万ドル)のほか、五輪開催中のホームレス救援対策費としてOCAから10万ドルを交付されており、対策の一環として、臨時宿泊施設での滞在を希望するかなど大会期間中の過ごし方について、ホームレスの人々の意向を聴いた。臨時宿泊施設としては、州住宅省がシドニー内外の簡易宿泊所のベッドを1床65ドルで300人以上借り上げたほか、近郊に仮設宿泊所も設置された。

一方で、ホームレス支援団体関係者などによれば、ホームレスの居心地を悪くして、事実上締め出すような狡猾な措置も講じられたという。例えば市内の公園のベンチは、1999年に肘掛け付きのものに切り換えられ、ホームレスが横になって寝ることができなくなった。寝泊りするホームレスの多い主要な公園は、大会期間中、明るく照らされた華やかな五輪コンサート会場として使用され、これらの公園で毎晩行われていたホームレスへの食事提供サービスは、場所の変更を余儀なくされた。

※ 1998年調査では、豪州全体のホームレスは136,000人(うちNSW州27,300人)。なお、五輪中のシドニーでは、簡易宿泊所等に滞在した者を除き、約2,500人のホームレスが路上で過ごしたと見られる。

(2) 五輪ボランティアで大学の単位(00.8.25 SMH)

シドニー五輪では50,000人以上のボランティアが動員されたが、その中には約6,000人の大学生も含まれている(今年に限り、年間日程を調整し、五輪開催期間中、NSW州内の大学や学校を休暇とする臨時措置が講じられた)。専攻学科別の人数は次表のとおりで、大部分は、専攻分野に関連するボランティア勤務に従事した。

専攻	人数	ボランティア業務に従事する職場(職種)
工学	2,000	SOCOG、IBM
メディア・放送・ジャーナリズム・コミュニケーション	2,500	SOCOG、五輪放送協会、NBC、州警察メディア部門、欧州放送連合、各通信社
スポーツ学	500	SOCOG
人事管理	500	SOCOG(人事部門)
言語学	200	SOCOG(通訳)
法律	30	SOCOG(商標保護部門)
医学	50	SOCOG(医療部門)
合計	5,780	

(SOCOG資料)

五輪ボランティアは、ユニフォーム、勤務中の食事、往復の交通費が支給されるほかは基本的に

無償奉仕であり、これは学生ボランティアも同様であるが、シドニー圏を中心とする大学の多くは、以下に例示するように五輪に様々な支援を行っており、その一環として、専攻に関連するボランティア業務に従事した学生には、多くの場合、関連講座の単位が認められるという便宜も図られた。

- シドニー大学臨床獣医学科の学生は、馬術競技に出場する海外の馬 256 頭から採取した血液の分析作業の補助に従事することにより、単位を取得する。この検疫作業は、海外から持ち込まれた細菌に対する抵抗力が弱い豪州産の馬や動植物を保護することを目的とする重要なもので、検査方法の確立には7年の歳月が費やされた。
- シドニー工科大学は、1994 年以降、スポーツ管理学の修士課程、実況中継オペレーター養成課程などに五輪関連の講座を設けてきたが、1999年3月に新設されたボランティア養成講座のカリキュラムには、五輪ボランティア活動に実際に従事することも含まれている。また、同大学でジャーナリズムを専攻する学生の中には、選手村で選手や関係者に無料配布される日刊紙『The Village News』の編集者として働き、8 単位を取得する者もある。
- NSW大学は、1996 年 5 月に設置した「五輪研究所」の活動の一環として、IBM や SOCOG の業務に従事するボランティアの斡旋を行ってきた。IBM での主な業務は、選手村や競技会場に特設された「サーフ・シャック(Surf Shack)」と呼ばれるインターネット・カフェの運営に関するものである。選手たちはこれらのインターネット・カフェで、世界中から送られてきた応援や祝福の電子ファン・メールを読んだり、自分自身のホームページを作成することができる。「サーフ・シャック」は、IBM がアトランタ五輪で初めて導入し、長野五輪でも好評だった。同大学では、工学部などから 60 人以上の学生がその管理運営に参加し、単位を認められた。

(3) 大会直前のバス輸送混乱に応急措置(00.9.13 SMH)

五輪開幕前には、強風のため電車が運行不能となり、何万人もが五輪公園駅で立ち往生になるなど、輸送計画に関する不安材料が少なくなかった。中でも特に危惧されたのはバス輸送で、練習会場に向かう選手や取材の記者が長時間待たされたり、地理に不慣れなボランティア運転手が道に迷ったりするなど、大会直前に様々なトラブルが続出した。

応急措置として、SOCOG は、NSW 州政府に緊急支援を要請し、州営バス 200 台、運転手 200 人、管理スタッフ 50 人の提供を受けるとともに、地理不案内な運転手を補助するため、隣に座って道順を指示する「ツアー・リーダー」ボランティア 500 人を急募した。連邦政府にも軍から 400 人の運転手の派遣を要請したが、東ティモール派兵などの事情で、軍からの派遣は 100 人以下にとどまった。

混乱の最大の原因は、必要な車両台数や運転者数の見積りが甘かったことにあるが、地方部や他州から動員された運転手のうち 110 人以上が、宿舎として1部屋に 8 人も押し込まれたり、人数分の食事が用意されていなかったりなど、粗略な待遇に腹を立てて開幕を前に引き揚げてしまったことも、混乱に拍車をかけた。SOCOG では、過去の勤務実績に遡って1時間当たり 4 ドルのボーナスを追加支給するなどの措置を講じ、事態の収拾を図った。

これらの応急処置が効を奏し、大会期間中は、バス輸送も含め交通計画は円滑に機能し、選手や観客の輸送にほとんど混乱は生じなかった。

(4)「ダフ屋」商売は不調(00.9.23 SMH)

競技チケットの売行きは、大会が近づくにつれて急伸び、最終的には総販売枚数の90%以上が捌けるという、過去最高の販売率を達成した。そのため、各販売所では、大会直前から期間中にかけては、3時間以上も並ぶような長蛇の列ができた。それらの行列の周辺ではチケットの束をちらつかせるダフ屋の姿も見られたが、誘いに乗る客はほとんどなく、これまでの大会に比べ、ダフ屋にとって厳しい市場だったと言われている。

SOCOGもダフ屋の取締りに厳しい態度で臨み、組織的ダフ屋グループからのチケット押収にも踏み切った。五輪運営法に基づき、ダフ屋行為を行った者に5,000ドルの罰金を科すことも可能である。また、SOCOGは、米国、スイス、ロシア、ヴェネズエラ、スペインの各五輪委員会に対し、ダフ屋にチケットを転売したとして抗議する文書を送付した。SOCOGの弁護士が調査のためダフ屋から購入したチケットが、もともと上記5か国の五輪委員会に販売されたものであったことが確認されたためである。

他国に割り当てられたチケットを開催国内で販売することはIOCが禁止しているが、それらのチケットが流入するケースは跡を絶たない。各国の五輪委員会は自らの組織分と指定販売業者の分のチケットを購入するが、売れ残ったチケットをダフ屋に売ることがあると言われる。また、人気のない競技チケットを割り当てられたスポンサーが、それらのチケットをまとめてダフ屋に売り、より人気のある種目のチケットを確保するための資金に充てることもある。これらがダフ屋のチケットの供給源になっていると見られている。

(5)フル稼働でゴミ回収(00.9.21 SMH)

五輪期間中に排出されるごみは、五輪公園西方の集積所にいったん集められ、2週間以内に①堆肥化、②リサイクル、③埋め立てのいずれかの処理が行われる。

シドニー五輪は、環境にやさしい「グリーンゲーム」を基本理念の1つとして掲げており、その一環として、埋め立て処分は五輪関連ごみの総量の20%以下に抑制するという目標を設定している。堆肥化されたごみは、2001年早々に、1立方メートルあたり35～45ドルの価格で園芸肥料として売り出される。リサイクル対策としては、すべての五輪会場に分別回収箱を設置し、協力を呼びかけた。

ごみの回収はフル稼働で行われた。シドニー市(面積6km²)の場合、サッカー場600個分に相当する約100万m²の街路や道路、普段の3倍近い1,500箇所を設置したごみ箱からごみを回収するため、大会期間中は連日、通常の2倍相当の67台の収集車を動員し、早朝5時から回収作業を行った。開会式(9月15日)の夜には、約49トンのごみが排出されたが、これは市内で一日に排出される標準的な量の4倍以上に相当する。市街のごみの状況を把握するため、監視カメラも設置された。

また、大会期間中、シドニー湾内には9隻の豪華客船が停泊し、「海上ホテル」として何千人もが宿泊したが、これらの客船から排出されるごみを回収するため、海上運搬による回収作業も、日の出から日の入りまで行われた。

12 シドニー五輪の収支決算と五輪公園の将来像 (00.12.15 SMH)

シドニー五輪が成功裡に閉幕して2か月余り、2001年1月1日をもって組織委員会も解散する。12月14日、その最後の役員会が開催され、大会のためにNSW州が負担したコスト総額の見込みと、五輪主会場となったホームブッシュ・ベイ地区五輪公園の今後の整備計画の青写真が示された。

報告によれば、テレビ放映権(11.2億ドル)、チケットの売上(6.6億ドル)、スポンサーシップ(6.6億ドル)、五輪関連の税収(7.7億ドル)等の収入を差し引いた、NSW州の実質的な負担額は17.4億ドルになる見通しである。また、「シドニー五輪公園－2000年以降の構想－」と題された報告書では、同地区をビジネス・娯楽街として再整備するための次のような提案が示された。

- ・ NSW州は、五輪公園の管理を担当する「シドニー五輪公園局(SOPA)」を設置する。
- ・ NSW州政府、五輪公園の諸施設(スタジアム・オーストラリア、スーパー・ドームなど)を運営する8社で組織する共同事業体、その他の民間企業により、総額1,000万ドルをかけて再整備を行う。
- ・ IT関連企業を誘致するとともに、街の活性化のため、レストラン街、映画館、駐車場、中高層住宅等を建設する。
- ・ デジタル技術を駆使し、キャシー・フリーマン(陸上)、イアン・ソープ(水泳)などの金メダリストと対戦できる五輪ゲームセンターを建設する。
- ・ ラグビーチーム「カンタベリー・ブルドッグ」の本拠地をショー・グラウンド(野球会場)に移転する。
- ・ 200万ドルをかけ、観光ツアーのマーケティングの強化を図る。

しかし、これらの提案のうちSOPA設立以外は、着手の見通しは立っておらず、2001年以降の検討課題として持ち越されている。1988年にシドニー中心部に隣接するウォーターフロント地区を再開発して整備されたダーリング・ハーバーでさえ、一応の採算がとれるまでに10年以上かかっており、シドニー中心部から遠い五輪公園の運営の採算性については悲観的な見方も少なくない。

13 ホームブッシュ・ベイ五輪跡地の都市化計画案 (01.6.20 SMH)

シドニー五輪のメイン会場となったホームブッシュ・ベイ地区は、シドニー都市圏から西に約16kmと遠いことから跡地の有効活用が課題となっているが、昨年12月の五輪公園開発に関する報告書に引き続き6月19日州政府が発表した五輪跡地再生計画案では、特に五輪公園駅付近の五輪跡地にアパートやオフィスビルを建設して都市化を目指す具体的な方策が示された。

同計画案によると、駅前開発に今後5年間で5億ドルを投じ、特に30階建ビル(1棟)と20階建ビル(3棟)のアパート建設により、合計1,300戸に3,000人が居住できるようにするほか、オフィスビルを建設する。さらに駅前には小売、レストラン、娯楽施設が入ったタウンセンターを建設し、10,000人の雇用創出を目指す。

既存施設についても、400万ドルをかけてアクアティック・センター(プール会場)やアスレティック・スタジアム(第2陸上競技会場)を拡充する。この他、OCAは24,000㎡のホテル用地を確保しているが、選手村協定によりホテル建設は2006年6月以降となる。

五輪跡地の活性化には、交通網整備も欠かせない要素である。計画案では、ロイヤル・イースタ

ー・ショーなど大イベント時に運行している臨時バスを常時運行すべきとしているほか、鉄道を増便し、鉄道だけで約 35%の利用者を輸送可能にする予定である。さらに、現在スーパー・ドーム付近にある大型液体ごみ処理施設を移転することを提案しているが、五輪にあたり現在地に移転された経過があることや、再移転には多額の経費を伴うことなど懸念材料も多い。

駅前開発のための企業向け説明会は先月 27 日に終了しており、翌年 6 月頃の工事着工に向け 8 月に入札が行われるなど、今後 15 年間に及ぶ五輪公園活性化に向けて計画案はスタートしつつあるが、課題も多いことから、現在の計画案は本年末に予定されている最終計画にあたっていくつかが変更される可能性もあり、紆余曲折が予想される。

(参考3) シドニー五輪関係年表

[1992年]

6月	・五輪招致のサポートとしてNSW州の教師・生徒による五輪スクール戦略を開始
----	---------------------------------------

[1993年]

9月	・ 2000年第27回夏季五輪開催地にシドニーが決定(23日)
11月	・ シドニー五輪組織委員会(SOCOG)設立

[1994年]

3月	・ 国際陸上競技場完成
10月	・ アクアティック・センター完成

[1995年]

1月	・ 州教育省がAOC、SOCOGと共同で教育戦略を策定
6月	・ 五輪調整局(OCA)設置

[1996年]

3月	・ レガッタ・センターの競技会場完成
9月	・ シドニー五輪のロゴ決定

[1997年]

1月	・ シドニー五輪のマスコット決定(シド、ミリ、オリ)(24日)
	・ フェリー乗り場(ホームブッシュベイ)完成
3月	・ 五輪道路輸送局(ORTA)設置
9月	・ シドニー中心部のホテルを対象に宿泊サービス税の課税開始
10月	・ レガッタ・センターのパビリオン完成

[1998年]

3月	・ ショー・グラウンド完成
4月	・ 第1回輸送テスト(於:ロイヤル・イースター・ショー)(3日-18日)
5月	・ 各競技のピクトグラムが決まる。(21日)
6月	・ アート・フェスティバル「ア・シー・チェンジ」開催(～10月)
7月	・ 国際アーチェリー・パーク完成
8月	・ 2000年五輪国家教育プログラム開始(SOCOG)
	・ 州ホッケー・センター完成
	・ シドニー近郊のバスに防犯カメラ設置を決定。
	・ 五輪入場券の販売方針を発表(SOCOG)
10月	・ ボランティア一般募集(～11月2日)、応募者は50,000人に対して、41,000人。
	・ 聖火リレーコース発表
11月	・ アート・フェスティバル「リーチング・ザ・ワールド」開催(～2000年1月)

[1999年]

2月	・スタジアム・オーストラリア一般公開。10万人以上が来場。参加者には歩行証明書が配られた。(21日)
3月	・スタジアム・オーストラリアで初イベント(ラグビー国内リーグ開幕戦)。(6日) ・聖火リレーのトーチの形を発表。白、ブルー、銀を配色し、オペラハウスの屋根をイメージ。(8日)
5月	・五輪入場券発売開始(30日) ・ホワイトウォーター・スタジアム完成
7月	・日本選手団のホストスクールがキャンベルタウン小学校に決まり、同校で発表式典(26日) ・NSW州TAFEが、ボランティア研修プログラムを発表。
9月	・スーパー・ドーム公開(5日) ・五輪1年前を記念して、ダーリング・ハーバーで「シドニー2000」イベント開催。50,000人が参加。(15日) ・国際乗馬センター、シドニー国際射撃場完成
10月	・パラリンピックの「1日パス」を15ドルで発売。パラリンピックで初の試み。(12日) ・企業や富裕階級に非公開で高額入場券「プレミアム・チケット」を販売していたことが判明。
11月	・スーパー・ドームで初イベント(パパロッティ(テノール歌手)コンサート)(6日) ・SOCOGの赤字が1億4,000万ドルに上り、数千万ドルの予算削減が必要なことが判明。(18日) ・ダーク・グレイ競輪場完成
12月	・州テニス・センター、ブラックタウン五輪センター完成

[2000年]

2月	・SOCOGの赤字が1億8,000万ドルであることが判明。予想より7,600万ドル低いチケット売上とスポンサー撤退による収入源が主な原因。(3日) ・ボランティア用ユニフォーム発表
3月	・イメージアップのためシドニー近郊で5㎡以上の屋外広告の新設を制限(パラリンピック終了後解除)
4月	・ライド・アクアティック・レジャー・センター完成。仮設ビーチバレーボール会場を除く全競技施設が完成。(27日)
5月	・アテネで聖火点火(8日) ・エアポートリンク(空港-セントラル駅)開通 ・ボンダイ・ビーチの仮設ビーチバレーボール会場の建設スタート(8日) ・空港連絡鉄道(空港-市内)運行開始(21日)
6月	・約250万枚のチケットが売れ残り、予算不足のため州政府からSOCOGへ1億4,000万ドルの財政補てん ・ボランティアのオリエンテーション研修開始 ・国内販売分チケット250万枚売残り ・州政府がSOCOGへ1億4,000万ドルの追加支出を決定(20日) ・パラリンピック選手団に1人1,000ドルの補助を行うことを決定(27日)
7月	・ボランティアの会場研修開始 ・五輪チケット宅配開始(6日)
8月	・聖火、豪州入り(エアーズロック)(8日) ・アート・フェスティバル「ハーバー・オブ・ライフ」開催(~9月) ・各業種労働組合による五輪ボーナス闘争が本格化。 ・聖火、NSW州入り(14日)

9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 州警察と陸軍によるメイン・プレス・センターのセキュリティ・チェック (29日) ・ スクール・ホリディ開始 (11日～10月3日) ・ 聖火、シドニー入り (12日) ・ 五輪競技開始 (15日～10月1日) (※ 競技日程は「参考4」参照)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会式 (15日) ・ 閉会式 (1日) ・ パラリンピック開始 (18日～29日)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「シドニー五輪公園－2000年以降の構想」発表 (14日) ・ SOCOGから州政府へ3,000万ドル返却

[2001年]

1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五輪会場で‘Summer Fun’開催 (6日～21日) ・ 五輪公園などでユース五輪開催
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五輪公園活用計画案発表 (19日)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ OCAがシドニー五輪公園協会 (SOPA) に改組される ・ NSW州首相が五輪経済効果について発表
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ‘IGNITE’開催 (15日～30日 (週末のみ))。五輪1周年を記念して、五輪公園内に聖火台を移転し点火。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五輪公園でテニス・マスターズ・カップ開催

[2002年]

1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五輪公園活用計画修正案発表 ・ オーストラランド社が州政府からメディア村を9,370万ドルで購入
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五輪公園でゲイ・ゲーム開催 (予定)

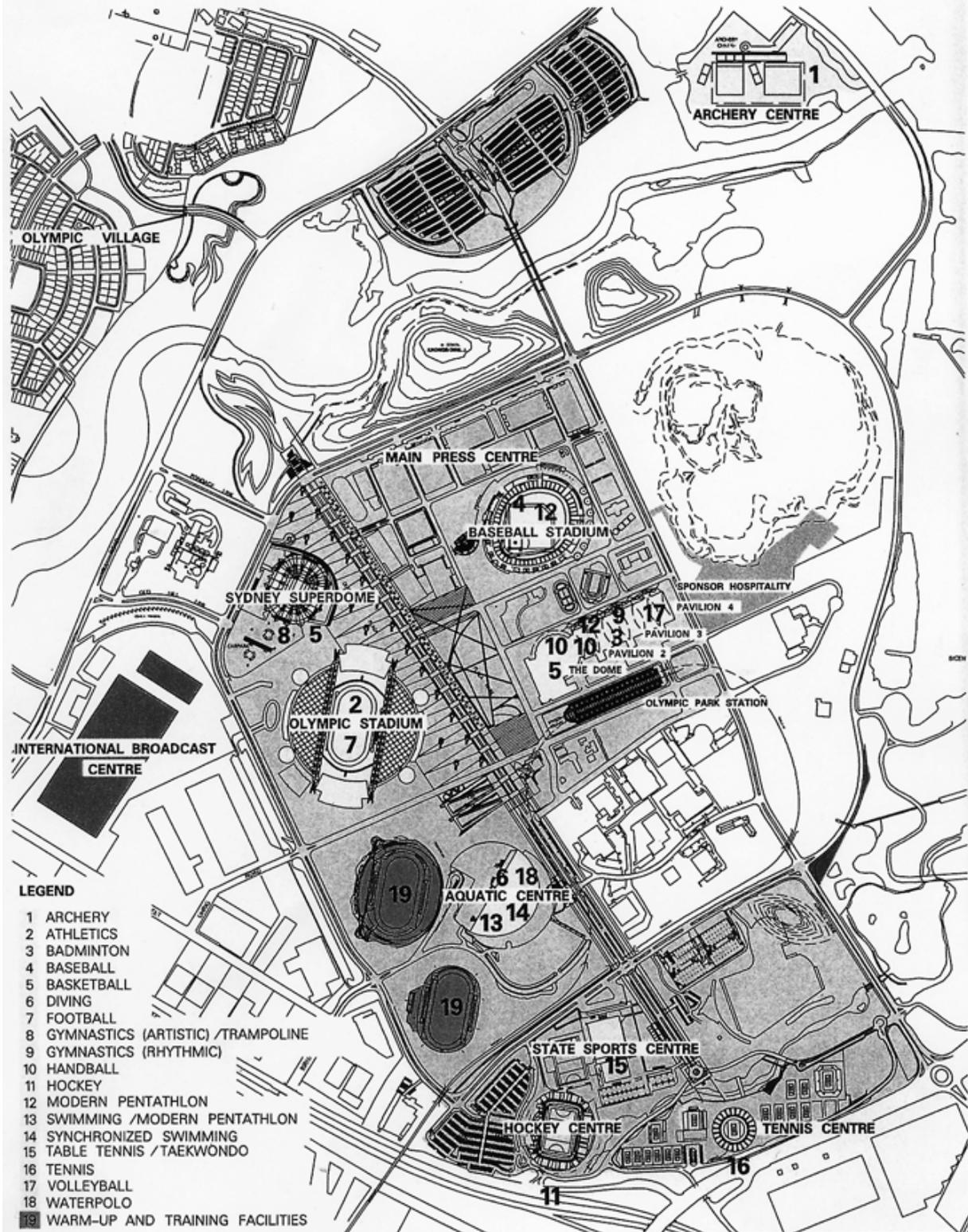
競技日程一覧

競 技	9.13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	10.1	メダル数	
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
開閉会式																					
陸上競技	トラック&フィールド								1	3	4	9			5	5	5	9		41	
	マラソン											1							1	2	
	競歩									1						1	1			3	
水 泳	競 泳			4	4	4	4	4	4	4	4									32	
	飛び込み									2	1		1		3			1		8	
	シンクロスイミング													1			1			2	
	水球 男子																		1	1	
	水球 女子										1									1	
サッカー	男子																		1	1	
	女子																1			1	
テニス															2	2				4	
ボート											7	7								14	
ホッケー	男子																		1	1	
	女子																	1		1	
ボクシング																			6	6	12
バレーボール	男子																			1	1
	女子																		1		1
	ビーチバレー												1	1							2
体 操	体 操		TT	TT		1	1	1	1			5	5	EX							14
	新体操														TT	TT			1	1	2
	トランポリン										1	1									2
バスケットボール	男子																			1	1
	女子																			1	1
レスリング	グレコローマン													4	4						8
	フリースタイル																		4	4	8
セーリング				P									4							7	11
ウエイトリフティング				1	2	2	2	2		2	1	1	1	1							15
ハンドボール	男子																			1	1
	女子																			1	1
自転車	トラック			2	2	1	1	3	3												12
	ロードタイムトライアル													T						2	2
	ロードレース													T	1	1					2
	マウンテンバイク												1	1							2
卓 球										1	1	1	1							4	
馬 術	障害飛越										T					1				1	2
	馬場馬術						1			1					1				1		2
	総合馬術																				2
フェンシング				1	1	1	1	1	2	1	1	1									10
柔 道				2	2	2	2	2	2	2											14
ソフトボール															1						1
バドミントン									2	1	2										5
射 撃				2	2	2	2	2	3	2	2										17
近代五種																			1	1	2
カーヌー	スラロム				TT		2		2												4
	スプリント																			6	6
アーチェリー				TT			1	1	1	1											4
野 球															1	R					1
テコンドー															2	2	2	2			8
トライアスロン				1	1																2
0 0 0 13 14 15 15 18 18 18 26 22 21 10 16 15 10 45 24 300																					

※ EX:エキシビジョン TT:チケットが発売される練習 T:練習日 R:予備日 P:練習日 ■部分:競技実施日

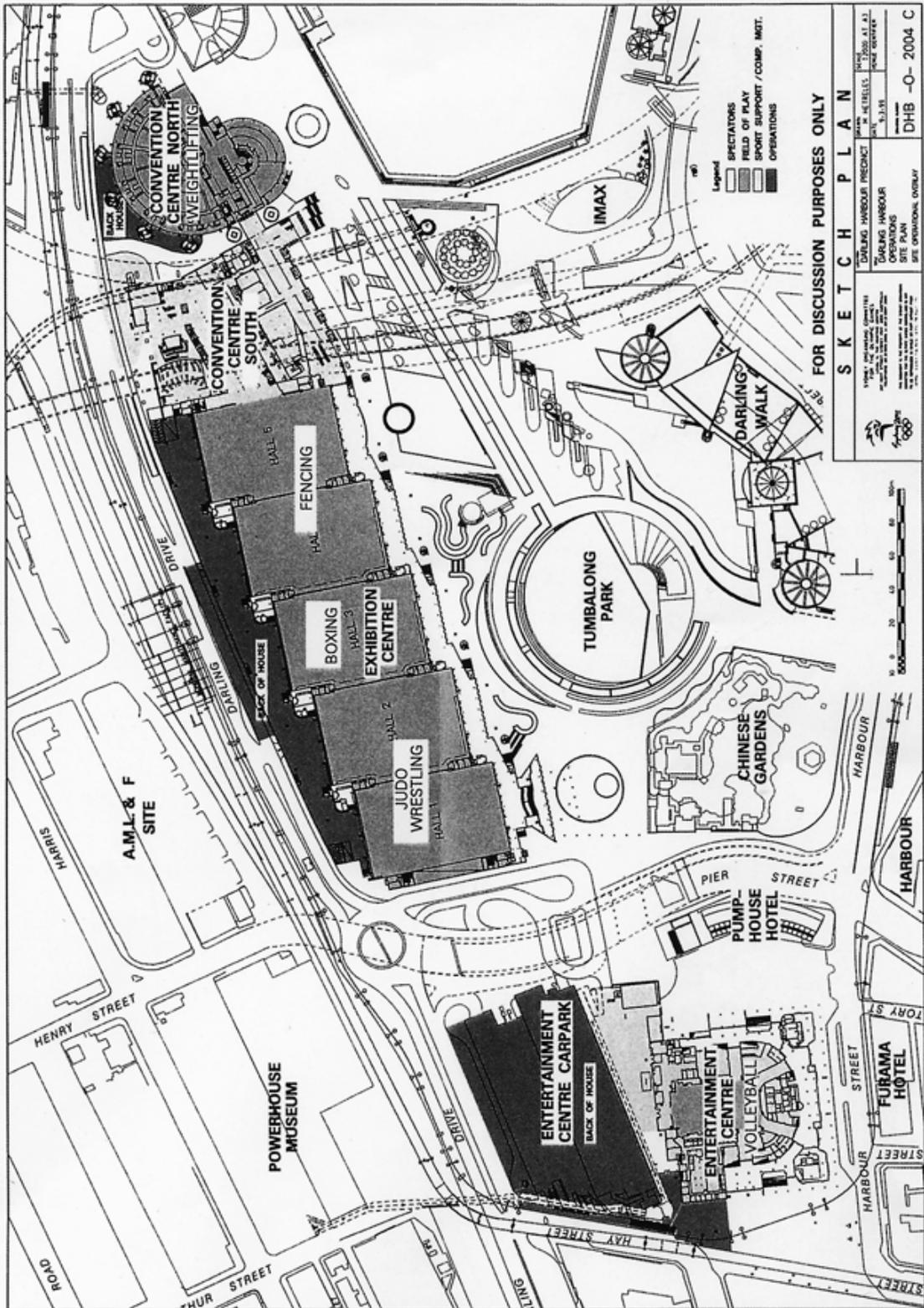
参照：第27回オリンピック競技大会日本代表選手団ハンドブック（JOC）

シドニー オリンピックパーク SYDNEY OLYMPIC PARK



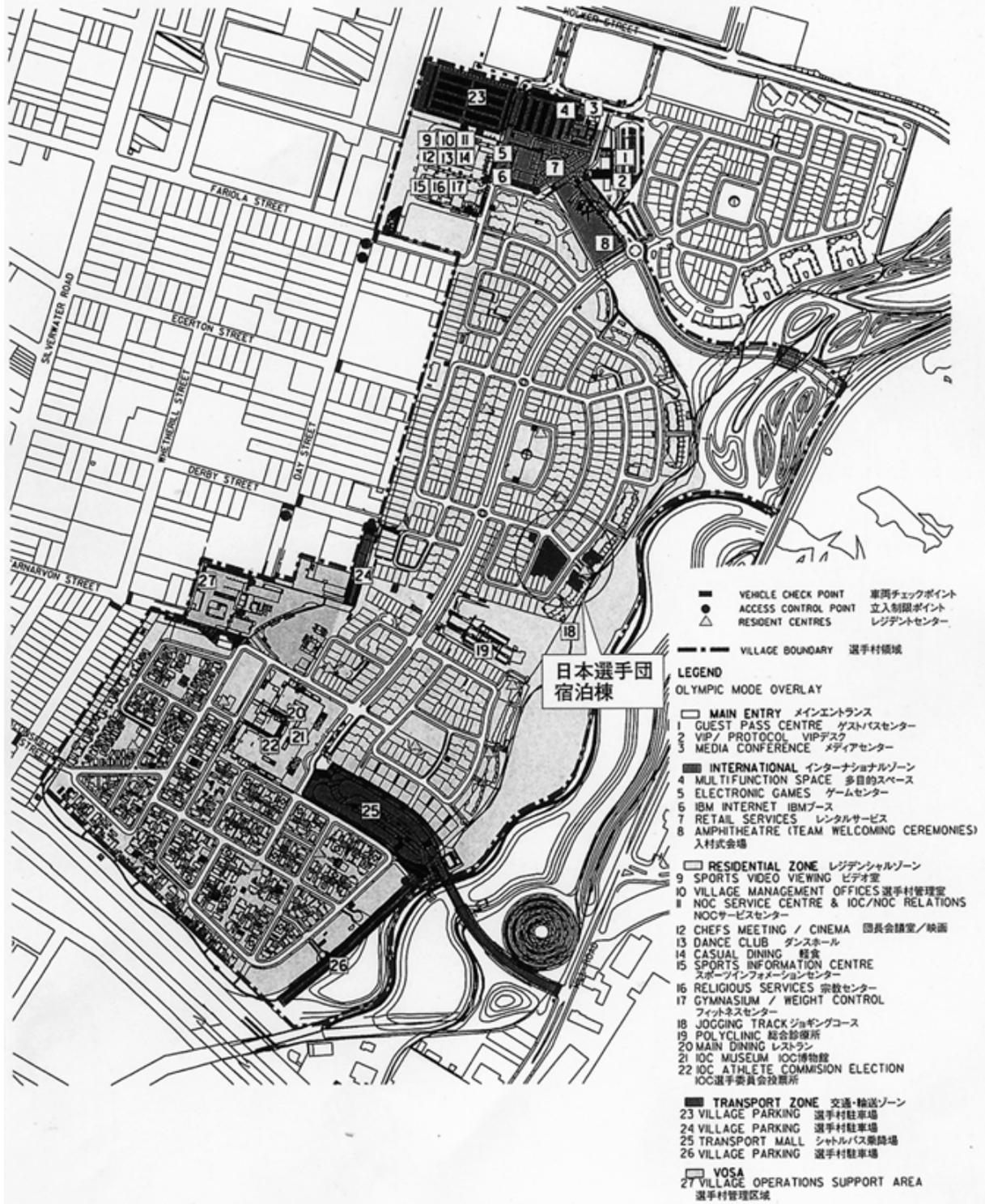
参照：第27回オリンピック競技大会日本代表選手団ハンドブック（JOC）

ダーリングハーバー
DARLING HARBOUR



参照：第27回オリンピック競技大会日本代表選手団ハンドブック（JOC）

選手村 OLYMPIC VILLAGE



参照：第27回オリンピック競技大会日本代表選手団ハンドブック（JOC）



トーチリレーコース

おわりに

シドニー五輪成功の理由は、施設が素晴らしかったことに加え、大会運営における以下の点が挙げられると言われている。

1. ボランティアの活躍

①従来からボランティアが盛んな国であること、②多文化・多民族国家で通訳ボランティアに不自由しなかったこと、が活躍の要因として挙げられる。

2. チケットの好調な売れ行き

①スポーツ好きの国民性であること、②開催国であるオーストラリアが多くのメダルを獲得したこと、がその要因として挙げられる。

3. 円滑な輸送システム

輸送については重視し、数多くの輸送テストにより準備してきたことで、輸送のノウハウを多くの人々が共有できた。五輪直前の9月6日には、強風で鉄道が約5時間不通となったものの、五輪中は鉄道の脱線を含めて交通機関に大きなトラブルがなかった。

4. テロ活動の阻止

五輪前1年間、テロ組織関係者の不法入国の増加が見られたが、適切に対処し、テロ事件を防いだ。その他、NZ国内でもシドニーの原子力発電所を狙ったテロ活動を阻止した。

5. 開催中の良好な天候

統計上シドニーは、9月は1年間で最も降水量が少ないが、雨は一度降り出すと数日続くことも珍しくない。しかしながら、五輪中は良好な天候が続いた⁴⁶。

シドニーは、初めての立候補で五輪開催の権利を得たが、五輪関係者によると、招致活動においては1992年ブリスベン市、1996年メルボルン市立候補の経験を参考にし、シドニーでも約20年前から将来の五輪開催をイメージしながらホームブッシュ・ベイ地域を開発し、スポーツ施設を整備してきたとのことである(シドニーは、入植200年目にあたる1988年五輪の立候補を検討したことがある。)

五輪について整理して、改めてその規模の大きさを認識し、数多くの五輪関係資料の中からレポートに必要な情報を選別することに一番腐心することとなった。

本レポートは、シドニー五輪について整理したものであるが、規模の大きなスポーツ大会、博覧会等を検討する自治体の参考になればと考えている。

最後に、レポート作成にあたり御協力いただいた豪州関係者、五輪関係者に御礼申し上げます。

⁴⁶ 雨が降ったのは、15日間で2日(午前中のみ)

参考文献

Information Compendium Sydney 2000 Olympic Games (SOCOG)

The Australian Government and the Sydney 2000 Games (Department of Prime Minister & Cabinet, 2001)

2000 Olympic Games Resource for Australian Schools

The Post Games Report of an Olympic Games (SOCOG, OCA)

その他 日豪プレス、NNA 等

参考ホームページ

SOCOG(シドニー五輪組織委員会) <http://www.olympics.com>

OCA(五輪調整局) <http://www.oa.nsw.gov.au/>

SOPA(シドニー五輪公園協会) <http://www.sopa.nsw.gov.au/>

NSW 州政府 <http://www.nsw.gov.au/>

NSW 州政府(五輪情報) <http://www.gamesinfo.com.au/> 等

【執筆者】

(財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 北吉 秀輔